

与論島を活性化させるためにはどのようなことをすればいいか

工学部機械工学科 奥野晃弘 学籍番号：2511210193

今日の与論島の長所と短所をまとめてみる。長所はなんといっても綺麗な海である。白い砂浜に透明度の高い海は、日本全国でもあまりない貴重なものではないかと思う。短所は、観光客がいきなり増えて、次第に減っていったため、街全体として、シャッターがしまった商店や、営業していない宿泊所が多く見受けられた気がする。また、航空網の発達した現在においても、与論島に行くための交通手段が、乗り継ぎなどの関係によって、与論島に行くことが難しく感じてしまう。

以上が、私が感じた与論島の長所と短所である。

これらのことを踏まえ、与論島を活性化させるためにはどうすればいいだろうか。幾つかの面から案を挙げてみようと思う。

1つ目は、交通手段に関することである。与論島に行くための手段として、空路と海路の2つであるが、どちらにもメリットとデメリットが存在する。空路は、沖縄経由または鹿児島経由の二通りの方法が存在する。短時間で与論島に行く事ができる一方で、航空運賃が高く便数も少ないのが欠点である。海路は、比較的安い価格で与論島に行く事ができるが、鹿児島からだと丸一日、沖縄からでも、4時間ほどかかってしまう。これらの解決策としては、やはり、航空会社やフェリー会社と時間や増便などの話し合いをしていくことが主な解決策になると思うが、私は、もう一步踏み込んだ解決策として、沖縄、与論、沖永良部、徳之島の4島を結ぶ高速船などを就航させてみてはどうかと思う。そうすることで、現在、沖縄まで飛行機で来て、一泊して次の日の船に乗るといった乗り継ぎの問題が解消され、沖縄からの来島者の増加につなげることができ、沖縄、与論、沖永良部、徳之島の4島の活性化にもつながるのではないかと思う。

2つ目は観光である。与論島の観光客は1978年、79年の15万人をピークに次第に減少していき、現在では、ピーク時の3分の1ほどになっている。主な理由としては、沖縄、ハワイなどに観光客が流れてしまったからだと思われる。確かに、同じぐらい綺麗な海に行くのであれば、より安い価格で行く事ができる沖縄などに行ってしまうと思う。そう考えると、航空運賃が高い与論島は不利かもしれない。そんな中、毎年春に開催しているヨロンマラソンは日本全国から参加者がおり、リピーターもいるということで、素晴らしいイベントである。このイベントは島としても大切にして島民みんなで盛り上げて行って欲しいと思う。このイベントからヒントを得ると、与論島が観光客を増やすためには、海を売りにしている他の観光地と同じ土俵で戦うのではなく、与論島独自のイベントなどをすることが観光客の増加につながると私は考える。観光協会長の田端さんの話の中の案をお借りすると、『なでしこジャパンの合宿地を誘致したい』とありましたが、日本代表クラスの合宿地となると、それなりの設備などもいるので、今現時点では難しいと思います。ですが、この案はとてもいいと思う。

日本代表でなくても、実業団チームなど毎年利用してくれるチームが増えていけば、観光客の増加につながるのではないかと思います。他にも、星がキレイに見える与論島で野外フェスなどをしてみるのもいいのではないかと思います。

また、観光客のターゲットも、お金はないけれど時間がある学生などに夏の思い出づくりとして船で与論島に来てもらう、ハネムーンで沖縄に行く予定の新婚さんにあと一歩足を伸ばして与論島に来てもらうなど、ターゲットを絞ってみるのもひとつの手段ではないかと思います。そうすることで、学生ならばロコミで広まりサークルの合宿地として、新婚さんならば子供ができてからまた来ようといったリピーターを増やすことにつながると考えるからである。

3つ目は経済です。与論島は島内に高校までしかないため、大学や専門学校など進学などを考えた際、島を出ることになります。与論島にとってこのことはあまり良くないと思う。そんな中で、日本マルコをはじめ、与論島内には数社企業の支店を誘致したことは大きい。これにより雇用が増え、若い人達を呼び戻すことができるからである。若い人達を島に呼び戻すことは、島の生産性を高めることができると考えるからである。私は、加えて、与論の特色を生かした産業をつくるべきであると思う。例を挙げるならば、与論島は、サトウキビの生産が多いので、さとうきび酢などの特産品をつくるといったことである。新たな産業を作ることで、雇用を生み、町内の財政を活性化することができるのではないかと思います。

以上が、私が考える『与論島を活性化させるため』にできることである。実現するためにお金のかかる案がほとんどであるが、島を変えるためには多少なり投資が必要であると考えた上での案である。